

三次リンパ組織に着目した前立腺肥大症における自己免疫性増殖機序の解明

秦 淳也

福島県立医科大学医学部 泌尿器科学講座

【目的】 ヒト前立腺肥大症 (BPH) 組織と BPH モデルラットを用いて、三次リンパ組織の評価を行うことで、BPH 増殖過程における三次リンパ組織の機能的意義を解析した。

【方法】 前立腺生検によりヒト前立腺組織を採取し、BPH 群、正常前立腺群での、三次リンパ組織の有無、サイズ、成熟度を評価し、さらに前立腺組織所見、下部尿路機能との比較解析も行った。胎仔ラットから尿生殖洞を単離・移植することで BPH モデルラットを作成し、三次リンパ組織と BPH の増殖・線維化との関連を解析した。

【概要】 ヒト BPH 群の 28% に三次リンパ組織が確認され、正常前立腺と比較して、有意に多かった。三次リンパ組織のサイズ、成熟度と前立腺組織所見、下部尿路機能との関連は認められなかった。BPH ラットにおいて、移植後の期間が長いほど、線維成分が増加していた。モデルラットにおける、三次リンパ組織の形成比率は、それぞれ 30%、38%、12% であり、線維成分との間で有意な関連が認められた。

【成果】 本研究の結果より、BPH の増殖または線維化過程において、三次リンパ組織の関与している可能性が示唆された。